

神戸市会議員



岡田ゆうじ

自由民主党神戸市会議員団市政報告

2021.10

No.35

オーラルフレイル対策

口の状況が悪くなると、栄養が取りづらくなり、要介護状態や「フレイル」(虚弱)になりやすくなります。フレイルとは要介護の一步手前、心身の活力低下状態を指し、「オーラルフレイル」とは口のフレイル、即ち口が渇く、滑舌が悪い、むせやすい、食べこぼす、飲み込みにくい、噛めない食品が増える、などの状態です。**オーラルフレイルは放置すると4年後には要介護状態に2.4倍なりやすい**といわれています。

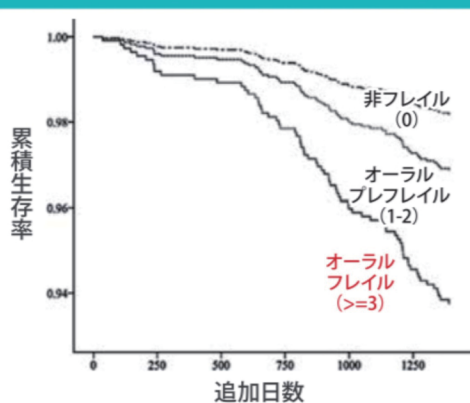
神戸市で実証事業を行った結果、65歳対象者の約80%がオーラルフレイルであること、また、自己申告による歯の本数と歯科医師の診査による歯の本数に大きな差があること等が分かりました。

こうした経緯を踏まえ、本年9月10日の神戸市会決算特別委員会において、**岡田ゆうじ議員から全市的なオーラルフレイルチェック事業の開始が強く申し入れられ**、

それを受けて同13日、オーラルフレイルチェック事業の開始に関するプレスリリースが健康局からなされました。

今後、満65歳の市民1.7万人余に、無料オーラルフレイルチェック券が順次送付されます。

総死亡に対する累積生存曲線



「オーラルフレイル」の人が抱えるリスク

新規発症

身体的フレイル	2.4倍
サルコペニア	2.1倍
要介護認定	2.4倍
総死亡リスク	2.1倍

調査開始時の年齢、性別、BMI、慢性疾患、抑うつ傾向、認知機能、居住形態、年収や喫煙習慣などの影響を考慮した値。要介護認定、総死亡リスクでは調査開始時のフレイルも考慮した値。

オーラルフレイルチェックの重要性

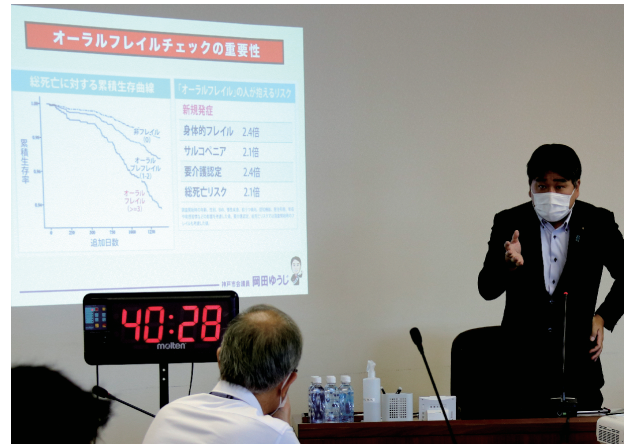
神戸市オーラルフレイルチェック事業の創設

○分科員 (岡田ゆうじ) フレイル、いわゆる介護に至る一步手前の状態というのは、一見ただけでは分からないケースも多い。しかし口の中を見てみると、この人はフレイルや介護とは無縁だと思っていた人が、「これはあかん」というのが分かる。

日本歯科医師会の資料によれば、オーラルフレイルだった人たちの、やがて介護・死亡に至るような人たちの割合は、非フレイルだった人と比べると2.4倍だったとのこと。オーラルフレイルから要介護や死に至るケースというのは、フレイルのチェックをしたときよりも2倍の精度で分かる。一見元気そうでも口の中を見たら、この人は一刻も早く手を打たなくちゃいけないと。

私は、このコロナで様々な社会活動が制限されて、今ほどフレイル対策の重要性が認識されているときはないと思う。特に、オーラルフレイルチェックの重要性が今国レベルでも認識をされているところであります。

ぜひ、神戸市でもオーラルフレイルチェック事業を創設していただきたい、開始をしていただきたい。



○花田健康局長 委員おっしゃるとおり、フレイルになる可能性がオーラルフレイルの方は非常に高い。口腔機能をきちっとしていくということが将来の要介護化防止につながる。令和元年度にオーラルフレイルチェックの実証事業を行った結果、65歳の方の8割が、実は自分で分かってないが、オーラルフレイルだったということが分かった。かつ、自分自身で申告していただいた歯の本数と実際に歯科の先生が見たら、自分の認識の本数と違うというようなケースが多いことも分かった。

地域の歯科医院でオーラルフレイルチェックを65歳の方の市民に受けていただくという事業を早期に開始したい。オーラルフレイルチェックを受けることで、自分の口の衰えにも気がつき、実際の機能の改善にもつながる。口腔機能の衰えを防いで、心身のフレイル予防、そして要介護状態を全力で防いでいく。

実現

65歳のオーラルフレイルチェック事業



- ①対象者 満65歳の市民1.7万人(1955.4.1～1956.3.31生)
- ②案内方法 事業案内・無料クーポン券・医療機関一覧を一斉郵送
- ③検診項目 歯、噛み合わせ(咀嚼)、滑舌・嚥下機能、口内乾燥等
- ④期間 無料クーポン券が届いた日から令和4年3月31日まで

